

2018 年度 研究所事業報告書

研究所名	国際言語文化研究所
------	-----------

I. 研究成果の概要

本欄には、研究所・センターの実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、研究所総合計画(5 ヵ年)および 2018 年度重点プロジェクト申請調書に記載した内容に照らし、項目立てなどをおこないできるだけわかりやすく記述してください。

国際言語文化研究所(以下、言文研という。)は、研究所重点プログラム、研究所独自の萌芽的研究(助成)プログラムや、研究所企画講演会・シンポジウムを通年で(若手研究者を巻き込みながら)遂行し、研究成果は論文・書籍として発信(一環としての紀要の刊行も)してきた。

紀要に関しては、例年通り 2018 年度も紀要「言語文化研究」を 4 号刊行した。内容は、「アジアにおける技術・芸術と社会のダイナミズム」「太平洋を渡るベースボールの橋」「現代イタリアの知の拡散と集積」特集に加えて、「戦争と性暴力の比較史へ向けて」「イタリアの都市における文化的表象」等のシンポジウム特集もあり、更に言文研萌芽研究報告および多くの個別投稿論文も含まれ、言文研の非常に多岐に渡る研究課題を網羅する充実したものであった。

毎年 10 月実施の研究所連続講座では、「ハワイ日本人移民—150 周年から考える—」を 2018 年度のテーマとして、(1)生活と移民、(2)文学と移民、(3)記録と移民、(4)教育と移民に関する講演会を 4 週連続で実施し、それぞれフロアとの活発な議論が交わされた。その成果は、次年度紀要に発表される予定である。

2016 年度開始の研究所重点プログラムは 5 本同時並行で進行しており、3 年目を迎えた。「文化と移動の紛争的インターフェイス」は構成員数が最も多く、上掲の連続講座やシンポジウムのほぼ全てを担当し、その成果も論文等で発信できた。このプロジェクト内には複数の研究グループが存在し、各グループ内での活発な研究活動がこのような成果につながった。「バイリンガル INIRS 言語脳科学プロジェクト」は、園児から成人までの日英バイリンガル被験者から最長 9 年目の縦断データを収集すると同時に、これまでの研究成果を学会誌や国際学会での発表だけでなく、国内外のバイリンガル子育て中の保護者や教育関係者への講演会として広く還元を行った。「ヴァナキュラー文化の多面的研究」は発足 11 年目となり、ヴァナキュラー文化の交流と循環を主テーマに据え、中世主義に関するシンポジウムの開催や、Palgrave Macmillan 社より日本における黒人研究の発展とその最前線に関する論文集の刊行も行った。「ジェンダー研究会」は 6 回の公開企画を通して、「性暴力」「クィア理論」「複合差別とアイデンティティ」の 3 課題に理論的アプローチを試み、フェミニズム理論・ジェンダー研究の更なる発展を目指した。「風景・空間の記憶、表象、歴史」は研究の発展と国際的な研究交流を目的として、上記「イタリアの都市の表象」国際シンポジウム等を開催した。次年度末にこれまでの研究成果を書籍「風景の人間学—自然と都市の表象」としてまとめる為に、研究会も 4 回行った。

このように研究所としての研究遂行とその成果発信および社会貢献は、概ね当初の予定通り 2018 年度は進めることができた。その中で、本研究所は、若手研究者の育成にも力を入れており、特に研究所重点プログラムでは、共同研究や研究会・シンポジウム開催を通して、(国際的)研究成果発信・マネジメント・研究者ネットワーク構築の面で、経験豊かな研究者がメンターとしての役割を果たすように留意している。また、若手研究者の作成した論文を研究グループ内で査読し、より質の高い論文執筆力の涵養にも努めている。若手研究者による研究会開催や、国際学会での英語での発表、ジャーナルへの論文掲載や博士号取得という形で、成果は着実に始めている。また、言文研では運営委員だけでなく前年度の萌芽的研究のPJリーダーにも門戸を広げ出版助成を設けており、2018 年度は「いかにしてアーサー王は日本で受容されサブカルチャー界に君臨したか——変容する中世騎士道物語」(文学部 岡本広毅、みずき書林)が刊行され、若手研究者の大きな活躍につながった。

II. 拠点構成員の一覧

本欄には、2019年3月31日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員協力研究員等の構成員を全て記載してください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③大学院生、④日本学術振興会特別研究員(PD・RPD)

役割	氏名	所属	職位
研究所長・センター長	高橋 秀寿	文学部	教授
運営委員	有田 節子	言語教育情報研究科	教授
	ウェルズ 恵子	文学部	教授
	小川 さやか	先端総合学術研究科	准教授
	小川 真和子	文学部	教授
	河原 典史	文学部	教授
	金 友子	国際関係学部	准教授
	坂下 史子	文学部	准教授
	佐藤 渉	法学部教授	教授
	田浦 秀幸	言語教育情報研究科	教授
	滝沢 直宏	言語教育情報研究科	教授
	土肥 秀行	文学部	教授
	内藤 由直	文学部	准教授
	中川 成美	文学部	特任教授
	仲間 裕子	産業社会学部	教授
	西林 孝浩	文学部	教授
	西 成彦	先端総合学術研究科	教授
	南川 文里	国際関係学部	教授
	吉田 恭子	文学部	教授
米山 裕	文学部	教授	
学内教員 (専任教員、研究系教員等)	千川 哲生	文学部	准教授
	Lachlan JACKSON	法学部	准教授
	崎山 政毅	文学部	教授
	ポール・デュムシエル	先端総合学術研究科	教授
	細谷 亨	経済学部	准教授
	ドユニ・タヤンディエー	国際関係学部	准教授
	鳥木 圭太	文学部	助教
	平田 裕	言語教育情報研究科	教授
	津熊 良政	言語教育情報研究科	教授
	鶴野 祐介	文学部	教授
	安保 寛尚	法学部	准教授
	岡本 広毅	文学部	准教授
	松本 克美	法務研究科	教授
	丸山 里美	産業社会学部	准教授
	RAJKAI Zsombor Tibor	国際関係学部	教授
LIONG Mario	国際関係学部	准教授	

	鳥山 純子	国際関係学部	准教授	
	坂本 利子	産業社会学部	特任教授	
	二宮 周平	法学部	特任教授	
	飯田 未来	政策科学部	准教授	
	金 成恩	グローバル・イノベーション 研究機構	助教	
	竹中 悠美	先端総合学術研究科	教授	
	加藤 政洋	文学部	教授	
	中本 真生子	国際関係学部	准教授	
	ロベルト・テッロースイ	言語教育センター	外国語嘱託講師	
学内の若手研究者	① 専門研究員・研究員	櫻井 悟史	生存学PD	専門研究員
		佐久間 香子	衣笠総合研究機構	専門研究員
		原 佑介	衣笠総合研究機構	専門研究員
		川端 美季	衣笠総合研究機構	専門研究員
	② リサーチアシスタント			
	③ 大学院生	秋吉 大輔	文学研究科	後期課程 6 回生
		山口 真紀	先端総合学術研究科	一貫制 8 回生
		柏尾 有祐	先端総合学術研究科	一貫制 5 回生
		荒木 健哉	先端総合学術研究科	一貫制 6 回生
		福田 浩久	先端総合学術研究科	一貫制 3 回生
		栗山 雄佑	文学研究科	後期課程 3 回生
		八木 達祐	先端総合学術研究科	一貫制 5 回生
		今里 基	先端総合学術研究科	一貫制 4 回生
		佐々木 亮	先端総合学術研究科	一貫制 4 回生
		小田 英里	先端総合学術研究科	一貫制 4 回生
		中井 祐希	文学研究科	後期課程 2 回生
		安藤 陽平	文学研究科	後期課程 2 回生
		金 昇淵	文学研究科	後期課程 1 回生
		スウ・ユウキ	言語教育情報研究科	前期課程 1 回生
		中村 夏子	言語教育情報研究科	前期課程 1 回生
		ユ・セン	言語教育情報研究科	前期課程 3 回生
		古谷 やす子	文学研究科	後期課程 5 回生
		川内 有子	文学研究科	後期課程 5 回生
		山崎 遼	文学研究科	後期課程 3 回生
		猪熊 慶祐	文学研究科	後期課程 2 回生
		中谷 可惟	文学研究科	前期課程 2 回生
		吉田 暁音	文学研究科	前期課程 1 回生
宮田 絵里		文学研究科	後期課程 3 回生	
岩本 知恵		文学研究科	後期課程 3 回生	
森 祐香里	文学研究科	後期課程 2 回生		
王 洋(WANG Yan)	文学研究科	後期課程 1 回生		
橋本 真佐子	先端総合学術研究科	一貫制博士課程		

④ 日本学術振興会特別 研究員(PD・RPD)	張 憲	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
	ボグナ・ササキ	日本学術振興会	学振特別研究員(PD)
	西井 麻里奈	衣笠総合研究機構	学振特別研究員(PD)
その他の学内者 (補助研究員、非常勤講師、研究 生、研修生等)	木下 昭	文学部	非常勤講師
	佐藤 量	文学部	非常勤講師
	池田 啓悟	文学部	非常勤講師
	武田 悠希	文学部	授業担当講師
	那須 葵	言語教育情報研究科修了生	BKC 非常勤講師
	山本 真紗子	文学部	授業担当講師
	住田 翔子	産業社会学部 国際言語文化研究所	非常勤講師 客員協力研究員
	フェデリカ・スガルビ	文学部 イタリア文化会館 大阪	授業担当講師 講師
客員協力研究員	井上 彰	東京大学	准教授
	宮下 和子	鹿屋体育大学 放送大学	名誉教授 非常勤講師
	西山 淳子	和歌山大学	准教授
	海寶 康臣	九州歯科大学	講師
	加藤 昌弘	名城大学	助教
	姫岡 とし子	東京大学	名誉教授
	フェデリコ・ファルネ	ボローニャ大学	非常勤講師
	井上 彰	東京大学	准教授
	櫻澤 誠	大阪教育大学教育学部	准教授
	大村 和正	産業社会学部	非常勤講師
	今野 裕子	亜細亜大学国際関係学部	講師
その他の学外者	久野 量一	東京外国語大学	教授
	大辻 都	京都造形芸術大学	教授
	中村 隆之	早稲田大学	准教授
	佐久間 寛	東京外国語大学 AA 研	特任研究員
	寺尾 智史	宮崎大学	准教授
	大澤 真幸	麗澤大学	客員教授
	後藤 玲子	一橋大学	教授
	長谷川 唯	日本学術振興会	特別研究員(PD)
	村田 裕和	北海道教育大学旭川校	准教授
	泉谷 瞬	大谷大学	講師
	友田 義行	信州大学	准教授
	禰美 智章	名古屋芸術大学	講師
	飯塚 隆藤	愛知大学	准教授
	石田 智恵	早稲田大学	常勤講師

	孫 美幸	大阪大学	講師
	田中 寛	大東文化大学	教授
	湊 圭史	同志社女子大学	准教授
	池内 靖子	立命館大学	名誉教授
	梁 仁實	岩手大学	准教授
	木村 朗子	津田塾大学学芸学部	教授
	岡野 八代	同志社大学グローバル・スタディーズ研究科	教授
	上野 千鶴子	東京大学 認定 NPO 法人ウィメンズアクションネットワーク(WAN)	名誉教授 理事長
	堀江 有里	法政大学大原社会問題研究所	客員研究員
	岩川 ありさ	法政大学国際文化学部	専任講師
	黒岩 裕市	フェリス女学院大学	非常勤講師
	山口 真紀	神戸学院大学	講師
	大谷 通高	大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 総合地球環境学研究所	技術補佐員
	庄 婕淳	惠州学院(中国)	専任教員
	三木 順子	京都工芸繊維大学	准教授
	ジョス・デ・ムル	エラスムス大学	教授
	イアン・ホワイト	エジンバラ大学	名誉教授
	ジョン・リー・カリッシュ	ベルリン自由大学	教授
	ゲイル・レヴィン	ニューヨーク市立大学	教授
	マルコ・ボア	ラフバラー大学	PD プログラム・ディレクター
	田所 辰之助	日本大学	教授
	番匠 健一	同志社大学	研究員

研究所・センター構成員 計 134 名 (うち学内の若手研究者 計 34 名)

III. 研究業績

本欄には、「II. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。(2019年3月31日時点)

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	久野量一	『島の「重さ」をめぐって キューバの文学を読む』	単著	2018年6月	松籟社		全256頁
2	岸政彦	『はじめての沖縄』	単著	2018年5月	新曜社		全256頁
3	岸政彦	『マンゴーと手榴弾—生活史の理論』	単著	2018年10月	勁草書房		全352頁
4	原祐介	『禁じられた郷愁—小林勝の戦後文学と朝鮮』	単著	2019年3月	新幹社		全401頁
5	岸政彦	『社会学はどこから来てどこへ行くのか』	共編著	2018年11月	有斐閣	北田暁大・筒井淳也・稲葉振一郎	

6	中川成美	『革命芸術プロレタリア文化運動』	共編著	2019年2月	森話社	村田裕和	
7	土肥秀行	L'archivio Marone a Buenos Aires ブ エノスアイレスのマローネ文庫[伊 語], in La letteratura italiana nel mondo iberico e latinoamericano. Critica, traduzione, istituzioni, 西葡語 圏におけるイタリア文学 [伊語] a cura di Alejandro Patat,	共編著	2018年9月	Pisa, Pacini,		pp.103-109
8	土肥秀行	Pasolini in Giappone. Un' analogia "agghiacciante", 日本におけるパゾ ーニ、「恐るべき」類似[伊語] in Moravia, Pasolini e il conformismo a cura di Angelo Favaro,	共編著	2018年3月	Avellino, Edizioni Sinestesie		pp.93-98
9	カルラ・スア レス、久野 量一訳	『ハバナ零年』	共編著	2019年2月	共和国		
10	中村隆之 編・訳	『ダヴィッド・ジョブ詩集』	共編著	2019年3月	夜光社		
11	坂下史子	Transpacific Correspondence: Dispatches from Japan's Black Studies	共編著	2019年3月	Palgrave Macmillan	Yuichiro Onishi と共編 著、その他の著者: Keith Byerman, Yusuke Torii, Yoko Mitsuishi, Ayumu Kaneko, Masayoshi Yamada, Yasuhiro Okada	pp.1-71
12	鶴野祐介	赤い鳥事典	単著	2018年7月	柏書房、赤い鳥事典編集 委員会・編		pp.328-330
13	岡本広毅	『いかにしてアーサー王は日本で受 容されサブカルチャー界に君臨した か——変容する中世騎士道物語』	共編著	2019年3月	みずき書林	小宮真樹子と共編著	pp.2-15 pp.259-278
14	加藤昌弘	『よくわかるイギリス近現代史』(担当 箇所: 「連合王国」イギリスのゆくえ (スコットランド独立問題))	共著	2018年6月	ミネルヴァ書房	君塚直隆編著	pp.168-169
15	西山淳子	『ことばとの対話—理論・記述・言語 教育』	共著	2019年2月	英宝社	編者: 藤岡克則、北林利 治、長谷部陽一	pp.151-160
16	松本克美	「交渉と時効」『社会の発展と民法 学・上巻・近江幸治先生古稀記念論 文集』	共著	2019年1月	成文堂	道垣内弘人・片山直也・ 山口斉昭・青木則幸編	
17	上野千鶴子	『戦争と性暴力の比較史へ向けて』	共著	2018年2月	岩波書店	上野千鶴子・蘭信三・平 井和子編	全367頁
18	上野千鶴子	『情報生産者になる』	単著	2018年9月	筑摩書房		全381頁
19	上野千鶴子	『女ざらい 新版』	単著	2018年10月	朝日新聞出版		全389頁
20	Satomi Maruyama	Living on the Streets in Japan: Homeless Women Break their Silence	単著	2019年1月	Trans Pacific Press	訳者 Stephen Filler	全255頁
21	黒岩裕市	『読むことのクイア——続 愛の技 法』	共著	2019年3月	中央大学出版部	中央大学人文科学研究 所編	pp.157-176
22	鳥山純子	『大学生・社会人のためのイスラーム 講座』	共著	2018年11月	ナカニシヤ出版	小杉泰、黒田賢治、二ツ 山達朗編	pp.203-219
23	金友子	『社会思想史辞典』	共著	2019年1月	丸善	社会思想史学会編(分 担執筆)	pp.474-475
24	梁仁實	「복합 영화상영관 메이지좌의 사회사」『명동 길거리 문화사(明 洞の街の文化史)』	共著	2019年2月	한국학중앙연구원출판부 (韓國学中央研究院出版 部)	山本淨邦ほか編	pp.37-55
25	泉谷瞬	『革命芸術プロレタリア文化運動』	共著	2019年2月	森話社	中川成美、村田裕和、 伊藤純、玉川薫、立本 紘之、内藤由直、和田 崇、鳥木圭太、正木喜 勝、鴨川都美、足立元、 池田啓悟、武田悠希	pp.273-290
26	岩川ありさ	「クイアな記憶の継承—森井良「ミッ クスルーム」論」『トラウマ研究論集第 1巻 ト라우マを生きる』	単著	2018年11月	京都大学学術出版会	田中雅一・松嶋健(編 著)	pp.389-410
27	武田悠希	鈴木康史編著『冒険と探検の近代日 本——物語・メディア・再生産』、担 当部分「第四章 『少年世界』が媒介 する「冒険・探検」——冒険小説作 家、江見水蔭、押川春浪の形成と扱	共著	2019年2月	せりか書房	鈴木康史、志村真幸、 熊谷昭宏、高嶋航、柴 田陽一、坂元正樹、高 井昌吏、大野哲也、村 越真、堀江謙一、	pp.81-85

		点]					
28	堀江有里	続べるもの／叛くもの——統治とキリスト教の異同をめぐる	共著	2019年3月	新教出版社	佐々木裕子、要友紀子、白石嘉治、栗原康、五井健太郎	pp.32-44 pp.66-112
29	竹中悠美	ルクセンブルクを知るための50章	共著	2018年12月	明石書店	田原憲和、木原紗織編	pp.255-262
30	高橋秀寿	時間／空間の戦後ドイツ史	単著	2018年7月	ミネルヴァ書房		全296頁
31	山本真紗子	『MADE IN JAPAN 日本の匠:世界に誇る日本の伝統工芸』	共編著	2018年10月	IBCパブリッシング	前崎 信也	
32	西井麻里奈	「<ここにはないもの>たちの声—広島・「復興」を生きる技法の社会史」(『忘却の記憶 広島』)	共著	2018年11月	月曜社	東琢磨、川本隆史、仙波希望ほか	pp.174-199

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他 編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	西成彦	「アメリカ文学とは何か〜北米文学の現在〜」	単著	2018年	『ケベック研究』第10号		pp.75-76	無
2	土肥秀行	「風景の不在と「写生」の誕生」	単著	2019年3月	『立命館言語文化研究』30(4)		pp.57-67	無
3	久野量一	「陸のユートピア、海賊小説、ムラート?小笠原博毅氏の報告から導かれて」	単著	2018年10月	『立命館言語文化研究』30巻1号		pp.23-28	無
4	中村隆之	「ダヴィッド・ジョップの「アフリカ」」	単著	2019年	『アフリカ研究』94号		pp.61-71	無
5	河原典史	「カナダにおける日系ガーディナーの先駆者たち(10)―新渡戸庭園の造園をめぐる森勘之助と角知道―」	単著	2018年	The Year of 2018 Membership Roster			無
6	河原典史	「20世紀初頭のカナダ西岸における日本人による漁村開拓―バンクーバー島西岸のユクルーレットを中心に―」	単著	2018年	『立命館地理学』30			無
7	河原典史	「カナダへの移民」	単著	2018年4月	日本移民学会編『日本人と海外移住―移民の歴史・現状・展望―』明石書店			無
8	河原典史	「済州島の近代水産業と日本人―日本人事業家たちの足跡―」	単著	2018年9月	梁聖宗・金良淑・伊地知紀子編著『済州島を知るための55章』明石書店			無
9	Norifumi KAWAHARA	Ship Names: Reeling the Identities of Japanese Fishermen	単著	2019年1月	Canada, Tomoko Ozawa ed. Japanese across the Pacific and Beyond, SAIRYUSHA		pp. 247-258	無
10	Satoshi Terao	"Reconsidering our linguistic diversity from Mirandese: The "latest" and the "least" among Romance languages", Dieter Stem, Motoki Nomachi, Bojan Beli?	単著	2018年10月	(Ed.) Linguistic Regionalism in Eastern Europe and Beyond: Minority, Regional and Literary Microlanguages Peter Lang: Frankfurt am Main		pp.257-273	無
11	TAURA, Hideyuki	A Linguistic and Neuro-Linguistic Case Study Examining the Developmental Stages in the First 6 Years of EFL Learning in Japan	単著	2018年5月	JALT Mind, Brain, and Education SIG The MindBrainEd Journal, 1, 28-46.		pp.28-46	有
12	田浦秀幸	継承語教育への translanguaging 導入: 海外土曜校でのケーススタディー	単著	2018年11月	立命館言語文化研究 30 巻 2 号		pp.71-90	無
13	田浦秀幸	「バイリンガルの世界へようこそ」書評	単著	2019年2月	教育新聞 3388号		p.5	有
14	田浦秀幸	99%の人が知らないバイリンガルの新常識: 避けるべきはセミリンガル。間違えただけの語学教育	単著	2018年11月	私立大学退職財団広報誌 BILANC 通巻 94 号 Vol.17		pp.6-8	無
15	田浦秀幸	みんなが知りたい! バイリ	単著	2018年4月	Spring 誌 (シンガポール発グロ		pp.20-21	無

		ンガルの育て方			ーバル教育を考える本格的教育 マガジン)			
16	Keiko WELLS	Variations and Interpretations of the Japanese Religious Folk Ballad, Sansho-Dayu, or "Princess Anju and Prince Zushio" (3): Re-Creation in Modern Fiction, Film, and Children's Literature	単著	2018年10月	Journal of Ethnography and Folklore, 1/2		pp.44-67	有
17	ウェルズ恵子	ヴァナキュラー文学の研 究: 定義・課題・提言	単著	2019年3月	『立命館言語文化研究』第30巻 4号		pp.133-148	無
18	鶴野祐介	「赤い鳥時代」の子どものう た環境	単著	2018年11月	子どもの文化研究所／研究子ど もの文化／第20号		pp.40-55	無
19	鶴野祐介	子どものコスモロジーと戦 争中の子どもの替え唄—笠 木透の替え唄研究 その6—	単著	2018年7月	立命館文学／第658号		pp.50-59	無
20	加藤昌弘	ヒップホップ文化の英国に おける現地化をめぐる歴史 的問題: スコットランドの白 人ラッパーの自叙伝を事例 とする言語とアイデンティテ ィの考察	単著	2019年3月	『立命館文学』661号		pp.1-13	有
21	湊圭史	現代ミュージカルにおける シェイクスピア—大衆文化 の原像	単著	2018年7月	同志社女子大学総合文化研究 所、『総合文化研究所紀要』35号		pp.164-182	有
22	湊圭史	現代アメリカ・マイノリティ詩 人の自在性—Sherman Alexie と Carthy Park Hong	単著	2018年7月	同志社女子大学英語英文学会、 『アスフォデル』53号		pp.68-83	有
23	西山淳子	The possible features of natural English pronunciation for Japanese learners and native speakers of English.	共著	2018年9月	Proc. ISAPh 2018 International Symposium on Applied Phonetics / DOI: 10.21437/ISAPh.2018-23.	Ueno, M., Magoku, T., Nishiyama, A.	pp.126-130	有
24	山崎遼	Living and Working with "Scaldies": Settled Scottish Travellers' Conflicts in Stanley Robertson's Fish-Hooses Series	単著	2018年9月	日本カレドニア学会、Caledonia 46号		pp.9-22	有
25	猪熊慶祐	「黒人コメディ?—スパイク・ リーの『欺かれた』にみられ る黒人コメディアンへの抵抗」	単著	2019年3月	『黒人研究』88号		pp.61-70	有
26	松本克美	「不法行為による潜在型損 害の長期消滅時効の起算 点—民法724条の『不法行 為の時』と『損害の性質』 論」	単著	2018年8月	立命館法学378号		pp.788-810	無
27	上野千鶴子	「ジェンダーはいかに再生 産されるか? Doing Gender & Undoing Gender」	単著	2019年3月	伊東利勝編『あなたと「わた し」?内と外をへだてる知?』愛知大 学人文社会学研究所		pp.1-34	無
28	姫岡とし子	「ナチ・ドイツの性暴力はい かに不可視化されたか— 強制収容所内売春施設を 中心として」	単著	2018年2月	上野千鶴子・蘭信三・平井和子 (編)『戦争と性暴力の比較史へ 向けて』岩波書店		pp.227-254	無
29	姫岡とし子	「(思想の言葉)感情史とジ ェンダー」	単著	2018年8月	『思想』no.1132、岩波書店			無
30	丸山里美	「韓日における子ども・若者 の生活困難状態への路上 アウトリーチ—ソウル「動く 青少年センター EXIT」の 支援実践から—」(調査報 告)	共著	2018年9月	『立命館産業社会論集』54-2	深谷弘和・岡 部茜・松岡江 里奈・山本耕 平・丸山里美	pp.123-136	無
31	栗山雄佑	「被害記憶への回路という 欲望—目取真俊「群蝶の 木」論」	単著	2018年11月	『日本近代文学』99集		pp.80-94	有
32	栗山雄佑	「目取真俊作品に見る性暴 力被害への応答・ポジショ ナリティ」	単著	2019年2月	『立命館大学国際言語文化研究』 30巻3号		pp.14-17	無
33	黒岩裕市	「「性別」を脱ぐ、「性別」を 着込む—村田沙耶香 『ハコブネ』とジェンダー規	単著	2019年2月	青土社『現代思想』第47巻第3 号		pp.256-267	無

		範]						
34	鳥山純子	中東ジェンダー研究の挑戦—ジェンダー化されたオリエンタリズムを超えて—	単著	2019年2月	国際ジェンダー学会誌, 16巻		pp.20-33	有
35	鳥山純子	病の前の舅の姿を求めて	単著	2018年7月	アジア経済研究所、「中東における家族の変容」研究会調査報告書	村上薫	pp.37-48	無
36	金友子	在日コリアン女性の生きにくさとヘイト・スピーチ—アプロ第二回在日コリアン女性実態調査の結果から	単著	2018年7月	月刊『部落解放』		pp.74-82	無
37	金友子	「ヘイト・スピーチと日本社会の差別について」	単著	2018年3月	『【報告書】第二回在日コリアン女性実態調査—生きにくさについてのアンケート—(2016年1月～5月実施)』	アプロ・未来を創造する在日コリアン女性ネットワーク	pp.84-89	無
38	泉谷瞬	出向者のクィア・リーディング—伊藤計画『虐殺器官』と津村記久子「十二月の窓辺」—	単著	2018年9月	昭和文学会, 昭和文学研究, 77集		pp. 71-84	有
39	泉谷瞬	「その場限り」に潜む希望—津村記久子「サイガサマのウィッカーマン」論	単著	2018年12月	原爆文学研究会, 原爆文学研究, 17号		pp.103-119	無
40	西成彦	『戦争と性暴力の比較史へ向けて』刊行記念シンポ(趣旨説明・司会・応答)	単著	2019年2月	『立命館言語文化研究』30巻3号			無
41	川端美季	「近代日本の母親像と清潔規範—家政書の「入浴」に関する記述を通して」	単著	2018年	『医学史研究』100号		pp.117-130	有
42	岩川ありさ	「ままならなさを沈黙させることはできない—小野さやか「恋とボルバキア」	単著	2018年2月	『現代思想』46(4)、青土社		pp.218-221	無
43	岩川ありさ	「戦争の傷を見つめるということ：「愛」から「愛国詩」へ/「愛国詩」から「愛」へ」	単著	2018年6月	思潮社『現代詩手帖』(特集『月に吠えらんねえ』の世界) 61(6)		pp.58-62	無
44	岩川ありさ	「名前の贈り物『いとしの猫っ毛』シリーズをめぐる」	単著	2018年12月	『ユリイカ』50(16)、青土社		pp.219-225	無
45	RAJKAI Zsombor Tibor	「概念としての家族の流動化」	単著	2019年3月	『教養としての世界史の学び方』山下範久著		pp.357-379	無
46	金成恩	韓国憲法裁判所の憲法不合法決定と嫡出否認権・嫡出推定に関する法改正	単著	2018年12月	『ジェンダー法学』, 信山社, 5号		pp.1-28	無
47	金成恩	韓国における子の氏の設定ルール—ジェンダーの視点からの検討—	単著	2018年12月	『ジェンダー法学』, 信山社, 5号		pp.77-95	無
48	金成恩	改革がすすまない3つの課題と人権に対する市民意識—研究と教育のアプローチの可能性について	共著	2018年10月	『法と心理』, 日本評論社, 第18巻第1号	山田早紀・山崎優子・相澤育郎・二宮周平・花本広志,	pp.63-69	無
49	木村朗子	平安宮廷の女たちと仏教	単著	2018年10月	『現代思想 10月臨時増刊号 仏教を考える』青土社		pp.270-280	無
50	木村朗子	「差別をめぐる震災後に起こっていること—津島佑子『狩りの時代』を読む」	単著	2019年3月	『世界のなかの(ポスト3.11)—ヨーロッパと日本の対話』		pp.207-231	無
51	堀江有里	教会をめぐるクィアな可能性—(怒り)の回復とその共同性に向けて	単著	2018年6月	新教出版社、『福音と世界』2018年7月号		pp.24-29	無
52	堀江有里	いまこそ(反婚)を! —婚姻・戸籍・家族	単著	2018年9月	アジア女性資料センター、『わたちの21世紀』第95号		pp.28-32	無
53	仲間裕子	ハンス・バルディングのイメージ論について	単著	2019年3月	形象, 4号		pp.16-31	無

54	Masako Yamamoto Maezaki	Innovative Trading Strategies for Japanese Art: Ikeda Seisuke, Yamanaka & Co. and their Overseas Branches(1870s-1930s)	単著	2018年12月	Acquiring Cultures: Histories of World Art on Western Markets, Berlin: De Gruyter	Bénédicte Savoy, Charlotte Guichard, and Christine Howald	pp.223-238	無
55	山本真紗子	「美術貿易黎明期の京都とロンドン—美術商池田清助とトーマス・J・ラーキン」	単著	2019年3月	『近代京都の美術工芸—制作・流通・鑑賞』思文閣出版	並木誠士編	pp.271-292	無
56	西井麻里奈	「住まう者たちの戦災復興—広島から再考する、復興の歴史経験」	単著	2019年1月	日本科学者会議、日本の科学者、54巻1号		pp. 30-36	有

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	Takayuki NAKAMURA	Modernite noire chez les etudiants et intellectuels antillais a Paris durant l'entre-deux-guerres,	2019年2月	国際シンポジウム Paris creole : son histoire, ses ecrivains, ses artistes(XVIIIe-XXe siecle), ソルボンヌ大学,	
2	内藤由直	「「まこと」と「まことしやかなもの」——中野重治・林房雄の転向と文学——」	2018年12月	中野重治 研究と講演の会（於・跡見学園女子大学）	
3	内藤由直	「(明治維新百年祭)が呼び起こしたもの——『大東亜戦争肯定論』と戦後価値の揺らぎ——」	2018年6月	日本近代文学会関西支部春季大会（於・京都大学）	
4	TAURA, Hideyuki	Regression and progression of bilingual's languages – A neuro-linguistic enquiry	2018年10月	Bilingualism Forum 2018, University of Illinois at Chicago, USA	
5	TAURA, Hideyuki	An fNIRS study on language acquisition and attrition	2018年10月	fNIRS 国際学会 2018, 東京大学	TAURA, Amanda
6	TAURA, Hideyuki	L2 loss and re-acquisition: A neurolinguistic/linguistic case study	2018年6月	LINGUAPAX ASIA, 筑波大学	
7	田浦秀幸	日英通訳体験による脳賦活様態の変化: 6年間の縦断研究	2018年8月	日本認知科学学会第35回大会,立命館大学茨木キャンパス	
8	田浦秀幸	日本でのバイリンガル・バイカルチャー教育と子育て – 保護者・教育関係者対象 –	2018年5月	第一言語としてのバイリンガリズム研究会第17回研究会, 大阪市立大学梅田サテライト	
9	ウェルズ恵子	日本の子守唄の展開: 発生から大衆文化への展開まで/Sad and Bitter Lullabies of Japan: Creation and Recreation of Child Nursemaids from Labor to Popular Culture	2018年4月	Department of Language, Philosophy and Communication Studies, Utah State University	
10	ウェルズ恵子	Voice(s) and Gender in a Japanese Religious Ballad Cycle, Sanshō Dayū (Sanshō the Bailiff)/ 日本民間宗教物語歌(説経節)の展開:「声」とジェンダーにかんする観察	2018年4月	Department of English, Utah State University	
11	ウェルズ恵子	「ヴァナキュラー—文学の研究—『ヴァナキュラー文化と現代社会』のエッセンスと主張」	2018年9月	現代民俗学会、東京大学東洋文化研究所大会議室	
12	ウェルズ恵子(司会)	「記録と移民」	2018年10月	国際言語文化研究所連続講座「ハワイ日本人移民150年から考える」第3回	
13	佐藤渉	「オーストラリア文学に描かれた日本人真珠貝ダイバー — ハーバートの短編『ミス・タナカ』とロメリルの戯曲『ミス・タナカ』」	2018年11月	立命館土曜講座、立命館大学衣笠キャンパス	
14	鶴野祐介	「浦島説話における水界イメージの精神的考察」	2018年6月	アジア民間説話学会第15回国際学術大会、韓国光州市全南大学校	
15	鶴野祐介	「説話伝承とダイバーシティ—手話による民話絵本よみ語りの活動—」	2019年2月	国際学術シンポジウム シルクロードと文化交流 —人の移動、表象、物語—、国立民族学博物館	
16	岡本広毅	「ファンタジー世界と新中世主義」	2018年11月	ヴァナキュラー文化研究会・立命館大学国際言語文化研究所萌芽的プロジェクト、衣笠キャンパス	
17	海賓康臣	「日本語における副詞節の後置をめぐる」	2019年3月	ヴァナキュラー文化研究会、衣笠キャンパス	
18	西山淳子	(ポスター発表) The possible features of natural English pronunciation for Japanese learners and native speakers of English	2018年9月	Aizu University	
19	西山淳子	「期間の副詞句 for と since 句と現在完了形の用法」	2018年12月	日本英文学会関西支部大会、神戸女学院大学	
20	西山淳子	「過去形と現在完了形の類型論の試み: 諸英語における現在完了形と過去形の交替について」	2019年3月	ヴァナキュラー文化研究会、衣笠キャンパス	

21	湊圭史	「21世紀のブロードウェイ・ミュージカルにおける死者とその機能」	2018年10月	アメリカ文学会第57回全国大会、実践女子大学渋谷キャンパス	
22	川内有子	『『忠臣蔵』("Forty-seven Ronin")の海外普及に関する日英の新聞報道の比較』	2018年6月	ARCセミナー、立命館大学	
23	川内有子	『『仮名手本忠臣蔵』の英訳と外国人の歌舞伎鑑賞』	2018年10月	日本英文学会大会、大阪府教育会館たかつガーデン	
24	川内有子	「イギリスにおける二二六事件の新聞報道に見られる『忠臣蔵』への言及の検討」	2019年2月	日本英文学会月例研究会、拓殖大学	
25	山崎遼	「Stanley Robertsonの自伝小説 Exodus to Alford に見るスコティッシュ・トラベラーの自己表象」	2018年11月	みんぱく若手研究者奨励セミナー、国立民族学博物館	
26	猪熊慶祐	「クリスティー・ミンストレルズに見られるアイルランド系移民——ジョージ・クリスティーの寸劇を中心に」	2018年8月	ヴァナキュラー文化研究会、衣笠キャンパス	
27	中谷可惟	「音のこぼれから書きこぼれへ——マイルス・デイヴィスの Kind of Blue 批評研究」	2019年3月	日本バレット協会第11回会合、立命館大学いばらきキャンパス	
28	Liong Mario	Between China and Sweden: Gender Dynamics and Practices among Chinese Academic Immigrant Families in Sweden	2018年2月	Global Migrations Conference 2018, Dunedin, New Zealand	
29	Liong Mario	From China to Sweden: Gender Dynamics and Practices among Chinese Academic Immigrant Families in Sweden	2018年6月	The Twenty-second Asian Studies Conference Japan, Tokyo, Japan	
30	松本克美	「企画趣旨・ワークショップ Me Too 運動の日韓比較」	2018年12月	ジェンダー法学会、2018年学術総会、東京立正大学法学部	
31	丸山里美	日本のホームレス女性の現状」	2018年9月	日本住宅会議サマーセミナー、東京大学	
32	丸山里美	「ホームレスの女性の施設支援システムとその課題」	2019年2月	奈良女セミナー『「住まい」からはいまる支援とは』奈良女子大学	
33	丸山里美	「世帯内資源配分に関する研究に見る『世帯のなかに隠れた貧困』」	2019年3月	大原社会問題研究所研究会『女性の貧困をいかにとらえるか』法政大学	
34	栗山雄佑	「怒りのための〈道具〉を覆すということ: 目取真俊『虹の鳥』論」	2018年11月	日本社会文学会 2018 年度秋季大会 沖繩国際大学	
35	栗山雄佑	『『戦争と性暴力の比較史へ向けて』刊行記念シンポジウム コメンテーター』	2018年7月	立命館大学ジェンダー研究会 立命館大学	
36	森祐香里	「『愛』のかたち」論—「特殊な」肉体をめぐる—」	2018年6月	立命館大学日本文学会 第62回大会、立命館大学	武田泰淳
37	王洋	阿部知二の〈上海もの〉における新女性——田村俊子・関露・雑誌『女声』との関連性を手がかりに」	2018年12月	阿部知二研究会 秋季研究大会 (第26回)、姫路文学館南館	王成
38	王洋	阿部知二の〈上海もの〉における新女性	2018年12月	第30回占領開拓期文化研究会、同志社大学寒梅館	森裕香里、倉地悠、林麗婷
39	黒岩裕市	「文学作品を通して(性の)多様性を再考する」	2018年6月	日本女性学会 2018 年度大会、武蔵大学	
40	黒岩裕市	「〈多様性尊重〉とゲイ表象——最近の小説から考える」	2018年12月	第6回応用倫理・応用哲学研究会、北海道大学	
41	OTANI, Michitaka	“Trends of Serious Game Jam in Japan: As a means to conceptualize sustainable society (tentative study)”	2018年9月	The 4th World Social Science Forum: Security and Equality for Sustainable Futures, Fukuoka International Congress Center, 福岡	
42	大谷通高	「ポスター発表: 男の生き方と生活感覚」	2018年12月	I-URIC フロントティアコロキウム 2018、つま恋リゾート彩の郷、静岡	
43	大谷通高	「ポスター発表: 男の生き方と生活感覚」	2018年12月	第10回地球研東京セミナー: 地球環境と生活文化——人新世における学び、東京大学駒場キャンパス、東京	
44	吉田恭子	「アナクロニスティック・モダニズムとしての『ノール』」	2018年5月	日本英文学会 2018 年度全国大会、東京女子大学(シンポジウム『モダニズムの現代性: 空間、情動、メディア・テクノロジー』)	田尻芳樹、秦邦生、佐藤元状
45	吉田恭子	「冷戦とクリエイティブ・ライティング」	2018年6月	アメリカ学会2018年度全国大会、北九州大学「部会 D: 文化冷戦の諸相??」ロックフェラー財団・翻訳・Creative Writing」	越智博美、中嶋啓雄、井上健、金志映
46	吉田恭子	“Is Murakami an American Writer?”	2019年3月	Association of Writers & Writing Programs (AWP) 全国大会、米国ポートランド市オレゴン・コンベンションセンタ、	辛島デイヴィッド、小野正嗣

47	TORIYAMA, Junko	Playing with social positions in contemporary Cairo: Female school teachers' manners and techniques of friend-making	2018年7月	The 5th World Congress of Middle Eastern Studies. Seville, Spain	
48	鳥山純子	Femininity or anti-machoism: revisiting women's roles in nonviolence	2018年11月	国際ワークショップ「非暴力」という戦略、「非暴力」という未来、東京大学	Prof. Chibli Mallat
49	金友子	〜イトの構図	2018年9月	日本社会病理学会 第34回大会ラウンドテーブル「社会病理・社会問題研究の可能性II—社会的排除はいかに研究しうるか—」	
50	梁仁實	「忘れられた過去の記憶と朝鮮映画—雑誌『ソヴェト映画』を中心に」「잊혀진 과거의 기억과 조선/영화-잡지 소비에트영화를 중심으로」	2018年9月	第14回世界韓国学大会、韓国学中央研究院	
51	庄婕淳	読まれている『源氏物語』——中国語訳を通じて——	2018年4月	第一回日中中日翻訳と教育研究会、中国・大連外国語大学	
52	庄婕淳	文化伝達の視点から見る『源氏物語』の中国語訳—豊子愷、林文月、葉渭渠の訳を例として—	2018年6月	海外における平安文学第11回研究会、大阪観光大学	
53	山口真紀	『『女性研究者支援』の射程——支援による分断をうみださないために』	2019年3月	大学評価学会大会@神戸大学	
54	KIM Sungeun	Guarantee both the use of ART and the access for parenthood for same sex couples: learn from the Netherlands law and policy	2018年12月	East Asian Association of Psychology and law, 12th annual Conference, Ritsumeikan University, Japan	
55	金成恩	韓国の Me too 運動の現状と課題	2018年12月	ジェンダー法学会第16回学術大会 (WS コメント)、立正大学	
56	金成恩	父子関係の推定とDNA鑑定—法律上の父子関係を考える(口頭報告)	2018年10月	法と心理学会第19回学術大会、関西国際大学尼崎キャンパス大学	
57	金成恩	ライフストーリーブックによる離婚後の子の利益保)	2019年2月	立命館大学人間科学研究所年次総会	斧原藍
58	KIM Sungeun	A proposal on "truth-telling" support system for donor-conceived families: through the citizen-minded survey in Japan	2018年6月	Annual Conference of the European association of Psychology and law, Turku, Finland,	
59	武田悠希	「写真画報」と「冒険世界」における視覚効果と都市文化——押川春浪の雑誌編集の一端として——	2015年9月	第154回研究例会(立命館大学日本文学会)(立命館大学)	
60	堀江有里	可視性・承認・主流化 ——日本におけるLGBTの状況	2018年8月	国連大学グローバル・セミナー 第34回湘南セッション(招待講演)、湘南国際村センター	
61	Yuko Nakama	Japanese Aesthetics in Contemporary and Traditional Vision	2018年11月	International Conference: The Idea and Practice of Contemporary Aesthetic Education and Art Education, Beijing Capitol University	
62	仲間裕子	交差するモダニズム—陳澄波をめぐる台湾と日本の近代美術	2019年1月	Arts Town—2019 Taiwan International Conference on Modern Fine Arts	
63	竹中悠美	植田正治の構成的風景と土門拳のリアリズム風景	2018年8月	「風景・空間の表象、記憶、歴史」研究例会、衣笠キャンパス	
64	竹中悠美	雪の重み—濱谷浩の〈風土写真〉にいたる日本の雪景画の変遷—	2019年2月	「風景・空間の表象、記憶、歴史」研究例会	
65	山本真紗子	「大原女—イメージと実像の変遷」	2018年6月	京都販女文化研究会例会、京都女子大学	
66	山本真紗子	「大原女」のいる風景	2019年2月	立命館大学国際言語文化研究所重点研究プログラム「風景・空間の表象、記憶、歴史」研究例会、立命館大学	
67	西井麻里奈	「生活者の声を読み解く—広島・戦災復興の経験史」	2019年2月	NPO サーベイ研究会、SOOO dramatic!	
68	西井麻里奈	「広島平和記念公園の一時居住者たち—戦災復興事業関連資料を手がかりに—」	2018年12月	立命館史学会第40回記念大会「国際交流の時代と政治・文化・社会」、立命館大学	
69	西井麻里奈	「一時居住者たちの広島平和記念公園——1940—1960年代の復興事務所資料からみる、立退きと復興——」	2018年11月	風景論研究会、立命館大学	
70	西井麻里奈	「広島・「復興」の戦後史—生活再建の語りを見る、場所の論理と空間の論理—」	2018年7月	満洲の記憶研究会、一橋大学	

4. 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	ワークショップ「翻訳という相互理解 文学の旅を考える」	衣笠キャンパス	2018年4月	43名	立命館大学国際言語文化研究所、トラベルライティング研究会
2	2018年度国際言語文化研究所連続講座「ハワイ日本人移民—150周年から考える」	衣笠キャンパス	2018年10月	129名	立命館大学国際言語文化研究所
3	『島の「重さ」をめぐって』合評会	衣笠キャンパス	2019年2月		文化の移動とコンフリクト(環カリブ地域の文化/文学)
4	ワークショップ「創造される他者と自己」	衣笠キャンパス	2019年2月		文化の移動と紛争的インターフェース
5	『ヴァナキュラー文化と現代社会』出版記念会	三条 Media Shop ギャラリー	2018年6月	36名	思文閣出版
6	ヴァナキュラー文化研究会(森脇由美子氏講話「形成期のブラックフェイス・ minstrelにみる人種意識と階級」)	衣笠キャンパス	2018年8月	8名	
7	ヴァナキュラー文化研究会(フォークテイル研究会)	衣笠キャンパス	2018年9月	4名	
8	シンポジウム「現代日本のファンタジー文化における西洋中世のイメージの源泉と受容」	衣笠キャンパス	2018年11月	88名	2018年度国際言語文化研究所萌芽的プロジェクト研究 B3・日本の西洋中世主義研究会
9	ヴァナキュラー文化研究会(フォークテイル研究会)	衣笠キャンパス	2019年3月	5名	
10	マリエッカ・ゴレジ・カウチチ氏講演会「スロベニアのバラッドについて」	いばらきキャンパス	2019年3月	39名	日本バラッド協会
11	ヴァナキュラー文化研究会(日英語の語用論に関する研究発表会)	衣笠キャンパス	2019年3月	5名	
12	ジェンダー研究会 2018年度第1回研究会「日本における中東ジェンダー研究」	衣笠キャンパス	2018年6月	10名	
13	Documentary film Screening “Shusenjo: The Main Battleground of the Comfort Women Issue” followed by discussion with Director Miki DEZAKI	衣笠キャンパス	2018年7月	27名	
14	『戦争と性暴力の比較史へ向けて』刊行記念シンポジウム	衣笠キャンパス	2018年7月	40名	
15	震災後文学とジェンダー	衣笠キャンパス	2018年11月	35名	津田塾大学
16	公開セミナー「中東の妊活事情—家族・医療・イスラームの視点から」	キャンパスプラザ京都	2019年2月	25名	科研費基盤(A)「イスラーム・ジェンダー学構築のための基礎的総合的研究」
17	公開研究会「フェミニズム×アイデンティティの政治×差別」	衣笠キャンパス	2019年2月	24名	フェミニズム研究会
18	国際シンポジウム「イタリアの都市の表象」	衣笠キャンパス	2018年5月	70名	
19	風景論研究会	衣笠キャンパス	2018年6月	13名	
20	風景論研究会	衣笠キャンパス	2018年11月	13名	
21	風景論研究会	衣笠キャンパス	2019年2月	15名	

5. その他研究活動(報道発表や講演会等)				
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
1	ウェルズ恵子	「ヴァナキュラー文化と現代社会」アメリカは歌う:働く人々と歌のいのち	思文閣出版×朝日カルチャーセンター・京都講座	2018年5月
2	ウェルズ恵子	エッセイ「春の吹雪に北米大陸開拓を思う」	『鴨東通信』No. 106(思文閣出版) pp. 16-17	2018年5月
3	ウェルズ恵子	エッセイ「倒れた少女」	月刊『潮』2018年8月号 pp. 30-31.	2018年7月
4	ウェルズ恵子	ハワイに仏教歌を探して	NHK ラジオ第二放送「宗教の時間」	2018年10月
5	鶴野祐介	「昔話の人間学」とは—「浦島太郎」を手がかりとして—	うたとかたりのセミナー in 武蔵野、武蔵野プレイス4階フォーラムB	2018年7月
6	鶴野祐介	「グローバル時代における「寛容性/非寛容性」をめぐるナラティブ・ポリティクス」	国立民族学博物館共同研究(代表:山泰幸)	2018年10月-2022年3月
7	安保寛尚	(書評)「島は重いのか軽いのか、そして誰のものなのか?」—久野量一著『島の「重さ」をめぐって』	『図書新聞』、3366号、4面	2018年9月

8	加藤昌弘	講演「スコットランドのお笑い番組で大爆笑！」	NPO 法人 日本スコットランド協会 関西茶会倶楽部第11回、神戸市・神戸倶楽部	2018年7月
9	丸山里美	「女性の貧困」	鳥取市男女共同参画センター	2018年9月
10	丸山里美	「DV や貧困など困難を抱える女性と入所施設」	大阪弁護士会館	2018年12月
11	丸山里美	「特別な配慮が必要な被害者への支援」	富山県民共生センター	2018年12月
12	丸山里美	「女性の貧困の構造と実態」	大阪府社会福祉協議会	2019年2月
13	丸山里美	「DV や貧困など困難を抱える女性と入所施設」	大阪府職員研修	2019年2月
14	吉田恭子	翻訳 蜂飼耳 “Wandering the Garden of Wandering” "Those Who Eat Are Eaten Tonight" "Doubled Desire”	掲載誌 TwoLines 29号、148-59頁	2018年9月
15	吉田恭子	翻訳 David Foster Wallace 「ロブスターの身」	『すばる』2018年9月号、282-298頁	2018年9月
16	吉田恭子	「エッセイストとしてのデヴィッド・フォスター・ウォレス」	『すばる』2018年8月号、298-300頁	2018年8月
17	吉田恭子	講演会 ”Navigating Literary Seas: An evening of readings and conversation with Kyoko Yoshida and Masatsugu Ono”	ポートランド日本庭園、小野正嗣、辛島デヴィッド	2019年3月
18	鳥山純子	現代イスラームと老齢介護—カイロでのジェンダー的特徴と可能性	日本ムスリム協会公開講演会	2018年12月
19	金友子	「マイクロアグレッションとは何か」	京都府立高等学校人権教育研究会総会、京都府学校給食会(京都市)	2018年5月
20	金友子	「マイクロアグレッション——日常に潜む見えない差別・排除」	関西学院大学社会学部 2018年度春学期 教職員人権問題研究会、関西学院大学(西宮市)	2018年6月
21	金友子	「マイクロアグレッション——日常に潜む見えない差別・排除」	嵯峨野高等学校 教職員人権研修、嵯峨野高等学校(京都市・京都市)	2018年8月
22	金友子	「マイクロアグレッション——日常に潜む見えない差別・排除」	京都府立桃山高等学校 教職員人権研究会、桃山高等学校(京都市・京都市)	2018年11月
23	金友子	「在日朝鮮人女性に対する複合差別と差別解消の課題」	世界人権宣言70周年記念大阪集会「世界人権宣言から70年 国際人権基準の進歩・成果・課題と日本」シンポジウム、世界人権宣言大阪連絡会議、(一財)アジア・太平洋人権情報センター(ヒューライツ大阪)主催、反差別国際運動(IMADR)後援	2018年12月
24	金友子	「マイクロアグレッション——日常に潜む見えない差別・排除」	府外教「ちがいでキドキ多文化共生ナビ」活用実践講座、大阪府在日外国人教育研究協議会、大阪市立港区民センター(大阪市)	2019年3月
25	KIM Wooja	International Conference Organizer	The 2nd International Workshop HATE SPEECH IN ASIA AND EUROPE: A COMPARATIVE APPROACH, Paris Diderot University, France.	2019年1月
26	竹中悠美	(解説パネル)「はじめに —スロージャーナリズムとしての「ヤズディの祈り」展—/Forward —A photo exhibition as Slow Journalism—」、「おわりに —平和ミュージアムでのヤズディたちとの出会い—/Afterword —Encounters with the Yazidis at a Museum for World Peace—」	立命館大学国際平和ミュージアム 2018年度春季特別展ヤズディの祈り 林典子写真展、立命館大学国際平和ミュージアム 中野記念ホール	2018年4月-2018年7月
27	竹中悠美	(対談)「ヤズディの祈り:林典子写真展」オープニングイベント 林典子氏との対談	(対談)竹中悠美「ヤズディの祈り:林典子写真展」オープニングイベント 林典子氏との対談	2018年4月
28	竹中悠美	(作品解説)ここが見どころ:「いのちの画室」で後ろめたさを抱きしめる	『立命館大学国際平和ミュージアムだより』第26巻第1号、10頁	2018年8月
29	竹中悠美	(展評)「美術いま関西で:生と死の記憶ざわめく空間 回顧展『クリスチャン・ボルタンスキー Lifetime』	『大阪日日新聞』2019年3月12日18面	2019年3月
30	山本真紗子	(展評)「美術いま関西で10 見極めた作品の要点を凝縮 記録された日本美術史—相見香雨、田中一松、土居次義の調査ノート展—」	『大阪日日新聞』2018年8月14日	2018年8月
31	山本真紗子	(展評)「美術いま関西で16 本能に根ざすパロディ—「日文研コレクション・描かれた「わらい」と「こわい」—春画・妖怪画の世界—」	『大阪日日新聞』2018年11月13日	2018年11月
32	山本真紗子	「京都画壇の明治—流派を越えた交流と「教育」の生み出したもの—」	『民族芸術』35(民族芸術学会)、2019年3月(印刷中)	2018年4月
33	西井麻里奈	中国新聞コラム緑地帯「声を読みとく」	中国新聞 文化面 計8回掲載	2019年3月
34	西井麻里奈	「その「片隅」の「日常」という世界—映画『この世界の片隅に』が描いたもの—(招待講演)」	あいち平和映画祭	2018年6月
35	住田翔子	(展評)「美術いま関西で5 時間と記憶、積み重ね紡ぐ ヤズディの祈り—林典子写真展」	『大阪日日新聞』2018年6月12日9面	2018年6月

36	住田翔子	(翻訳)コルドゥラ・ビショッフ「ドレスデンの『日本宮殿』—18世紀ヨーロッパにおける東洋への熱狂」	『立命館言語文化研究』30巻3号、pp. 149 - 163	2019年2月
37	住田翔子	(翻訳)ロベルト・ファルネ「都市、広場、遊び」	『立命館言語文化研究』30巻4号、pp. 119 - 131	2019年3月
38	仲間絢	(展評)「プーシキン美術館展(国立国際美術館)」	『大阪日日新聞』『美術いま関西で』2018年9月11日	2018年9月
39	仲間絢	(翻訳)ラファエレ・ミラーニ「理想都市」	『立命館大学言語文化研究』30巻4号、p.5-8	2019年3月

6. 受賞学術賞					
No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
1	山崎遼	国立民族学博物館	みんぱく若手研究者奨励セミナー賞	「Stanley Robertson の自伝小説 Exodus to Alford に見るスコティッシュ・トラベラーの自己表象」	2018年11月

7. 科学研究費助成事業						
No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	河原典史	カナダ契約移民の輩出と渡航後の地域的展開をめぐる歴史地理学的研究	基盤研究(C)	2015年4月	2020年3月	代表
2	土肥秀行	イタリア新前衛派の軌跡と展開に関する総合的研究	基盤研究(B)	2017年4月	2020年3月	代表
3	南川文里	アメリカ型多文化主義の後退と浸透をめぐる歴史社会学的研究	基盤研究(C)	2018年4月	2022年3月	代表
4	小川さやか	アジア-アフリカ諸国間の模造品交易に関する文化人類学的研究—携帯電話を事例に	若手研究(A)	2016年4月	2020年3月	代表
5	田浦秀幸	日英バイリンガル園児のメタ言語能力発達段階解明 fNIRS 研究	挑戦的萌芽研究	2016年4月	2019年3月	代表
6	ウェルズ恵子	ミンストレルショーと初期ミュージカルの研究:舞台芸能交流の観点から	基盤研究(C)	2018年4月	2021年3月	代表
7	佐藤渉	現代オーストラリア小説から読み解く先住民とヨーロッパ人の関係性	基盤研究(C)	2017年4月	2020年3月	代表
8	鶴野祐介	レジリエンスを引き出す災害後のコミュニティ支援モデルの構築	基盤研究(C) (代表:村本邦子)	2016年4月	2019年3月	分担
9	坂下史子	アメリカの人種暴力にみる記憶の政治学—エメット・ティル事件を例に	基盤研究(C)	2016年4月	2019年3月	代表
10	安保寛尚	アフロキューバ主義における混血アイデンティティの言説形成プロセスの解明	基盤研究(C)	2018年4月	2021年3月	代表
11	湊圭史	国内共同研究(龍谷大学) 環太平洋的/惑星思想的想像力が描く natureculture としての環境表象研究	基盤研究(C)	2016年4月	2019年3月	分担
12	吉田恭子	冷戦期創作科教授哲学と20世紀アメリカ文学の研究:自由陣営文学における自己検閲	基盤研究(C)	2018年4月	2021年3月	代表
13	丸山里美	日本社会における困窮女性の実態把握と売春防止法改正に向けた理論的研究	基盤研究(C)	2018年4月	2021年3月	代表
14	金友子	離散民の祖国志向の歴史・社会的構築性に関する研究	基盤研究(C)	2018年4月	2020年3月	代表
15	丸山里美	「オルタナティブ家族で精子提供によって出生した子の情報開示ジレンマに関する研究」	挑戦的萌芽研究	2017年6月	2020年3月	分担
16	川端美季	帝国日本の植民地における衛生規範の確立—公衆浴場の普及に注目して	若手研究	2018年4月	2021年3月	代表
17	梁仁實	<戦後>韓国映画における「植民地」表象と日韓における変容	基盤研究(C)	2017年4月	2020年3月	代表
18	木村朗子	震災後文学の研究とその理論的構築	基盤研究(C)	2017年4月	2020年3月	代表
19	堀江有里	日本におけるキア神学の文脈化をめぐる研究——「解放の神学」アプローチの可能性	基盤研究(C)	2017年4月	2020年3月	代表
20	姫岡とし子	近代ドイツのナショナリズムとさまざまな女性運動—日本のフェミニズムも含めて	基盤研究(C)	2017年4月	2020年3月	代表
21	山口真紀	被害の語りをめぐる〈保存世界〉の論理	研究活動スタート支援	2017年8月	2019年3月	代表
22	丸山里美	「子どもの貧困に関する総合的研究:貧困の世代的再生産の過程・構造の分析を通して」	基盤研究(A)	2016年4月	2020年3月	分担
23	中川成美	キア理論と日本文学—キア・リーディングの可能性と実践	基盤研究(C)	2016年4月	2019年3月	代表
24	吉田恭子	「現代英語圏文学におけるモダニズムの遺産継承に関する包括的研究」	基盤研究(B)	2016年4月	2019年3月	分担
25	丸山里美	「女性の貧困」を捉える:世帯内資源配分に着目した実証研究の方法の開発」	基盤研究(C)	2016年4月	2019年3月	分担

26	松本克美	修復的正義の観点からの<損害の可視化>を実現するための損害論の法心理学的再構築	基盤研究(C)	2016年4月	2019年3月	代表
27	岡野八代	ケアの倫理の民主主義的展開——フランスにおけるケアの倫理受容研究を通じて	基盤研究(B)	2015年4月	2019年3月	代表
28	金成恩	「生殖補助医療の法制度化による子の利益保護と家族形成の支援」	若手研究(B)	2016年4月	2019年3月	代表
29	RAJKAI Zsombor Tibor	家族変動と個人化に関する社会学的な言説の国際比較研究:ユーラシア地域を事例に	基盤研究(C)	2018年4月	2023年3月	代表
30	仲間裕子	ドイツ・モダニズムの黎明期—作品、理論、パトロン美学・歴史研究	基盤研究(C)	2017年4月	2019年3月	代表
31	竹中悠美	中断された生の残像:死者の写真展示における美学と倫理の問題	基盤研究(C)	2017年4月	2021年3月	代表
32	西井麻里奈	戦災復興の社会史的研究—「場」と戦争の記憶をめぐる広島の実例から—	特別研究員奨励費	2018年4月	2021年3月	代表
33	山本真紗子	19世紀末から20世紀初頭の欧米の「日本美術」愛好を支えたネットワーク	若手研究(B)	2016年4月	2019年3月	代表
34	山本真紗子	近代京都の美術・工芸に関する総合的研究—制作・流通・鑑賞の視点から—	基盤研究(B)	2015年4月	2019年3月	協力

8. 競争的資金等(科研費を除く)						
No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1	岸政彦	戦後沖縄社会の構造変容—戦争体験と戦後の生活史の実証分析	三菱財団人文科学助成	2018年	2019年	代表
2	ウェルズ恵子	口頭文学文化と社会と暴力	2018年度研究推進プログラム(科研費獲得推進型)	2018年7月	2019年3月	代表
3	川内有子	翻訳をととした文化受容の研究—忠臣蔵を題材として	日本学術振興会2018年度若手研究者海外挑戦プログラム	2018年4月	2018年9月	代表
4	Liong Mario	Defining Sonhood: The Exploration of Lived Experience of the Caregiving Sons in Their Late Adulthood in Hong Kong	Public Policy Research (PPR) Funding Scheme, the Policy Innovation and Co-ordination Office, Hong Kong Special Administrative Region Government	2018年7月	2019年8月	Co-Investigator
5	大谷通高	社会設計を構想する方法としてのゲーム開発	公益財団法人中山隼雄科学技術文化財団、研究助成A②基礎的・基盤的研究	2019年	2020年	代表
6	大谷通高	社会課題はどのようにゲームとしてリフレーミング可能か?—国内外のゲーム制作者へのインタビューを通じて	公益財団法人科学技術融合振興財団、研究課題C	2019年	2020年	代表
7	二宮周平	「生殖補助医療・社会的養護によるLGBTの家族形成支援システムの構築」	日本学術振興会 課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業	2018年10月	2021年9月	代表
8	竹中悠美	立命館大学国際平和ミュージアム2018年度春季特別展 ヤズディの祈り	公益財団法人 花玉芸術・科学財団 芸術文化助成【美術】	2018年3月	2018年7月	担当者

9. 知的財産権								
No.	氏名	名称	出願人区分	発明人区分	出願番号	公開番号	登録(特許)番号	国
該当なし								